

山本 かずひと



文京区の防災対策について



文京区では災害対策の指針をまとめた、文京区地域防災計画があります。これは、本区の地域に係る防災に関し、区の処理すべき事務又は業務を明確化したもので、その目的は、地震、風水害、大規模な火災又は爆発、事故等に対処できる体制の樹立を目的とし、「備えと助け合いのある災害に強いまちの実現」を図ることにあります。今回は、令和6年度における文京区地域防災計画の取組状況について、先日開催された災害対策調査特別委員会で議題に上がり審議されたので、その中でも重点項目として掲げられている37の施策の中から、主な内容についてご報告させていただきます。

今定例議会は、令和5年度の決算について審議される、決算委員会の集中審議も開催されます。私は、委員として質疑に臨ませていただきますので、皆様からのご意見ご要望などお待ち致しております。

在宅避難の周知啓発と備蓄の促進について

在宅避難の周知啓発：＜取組状況＞防災用品配布事業において「文の京そなえて安心BOOK」を全戸に配布をし、身の回りの災害リスクや在宅避難等について周知啓発を行いました。＜成果＞「文の京そなえて安心BOOK」の配布数は130,404世帯、内申込世帯は93,739世帯（申込率71,9%）となりました。＜今後の方針＞防災ガイドやリーフレットその他、VRコンテンツを活用するとともに、防災フェスタや防災アドバイザー派遣事業の在宅避難訓練等、様々な訓練の機会を捉えた周知啓発に取り組んでいきます。**備蓄の促進**：＜取組状況＞区民防災組織と中高層共同住宅等に対して備蓄品購入経費を助成すると共に、区内在住・在勤者に対して定価よりも安価で防災用品が購入できる、あっせん事業を実施しました。＜成果＞・備蓄品購入費用助成（区民防災組織）令和4年度26件、令和5年度6件、令和6年度17件。同じく（中高層共同住宅等）令和4年度9件、令和5年度15件、令和6年度11件。・防災用品あっせん 令和4年度42件、令和5年度33件、令和6年度50件。＜今後の方針＞今後も、防災講話や災害用備蓄品の再活用等を通じて、備蓄品購入費用助成等の周知啓発と利用促進を図って参ります。

マンション防災の啓発について

＜取組状況＞中高層共同住宅等に向けた防災対策の啓発冊子や「文の京そなえて安心BOOK」の全戸配布により、防災の啓発に取り組みました。また、マンション管理組合等を対象とした「災害時のマンショントイレ対策セミナー」を実施し、携帯トイレの備蓄や発災後のトイレの自己点検等について啓発しました。＜成果＞災害時のマンショントイレセミナー（2回）参加者177人（149団体）＜今後の方針＞引き続き、防災講話や防災士全体会等を通じて、マンション防災の周知啓発を図って参ります。

防災備蓄倉庫等の設置促進について

＜取組状況＞新たに建設する一定規模以上の中高層建築物に対して、建設に関する指導要綱に基づいて、防災備蓄倉庫の設置を推進しました。＜成果＞令和4年度42件、令和5年度44件、令和6年度25件。＜今後の方針＞一定数成果は出ていますが、引き続き新規物件の把握に努め防災倉庫の着実な設置を進めていきます。

食料・飲料水・生活必需品の備蓄について

＜取組状況・成果＞各避難所における備蓄物資等について、定期的な棚卸し等、適切な維持管理を行いました。また、トイレの確保等、想定避難者の3日分に相当する携帯トイレの備蓄を完備すると共に、障害者団体の要望に基づき手書き電光掲示板（アンブルボード）を配備しました。＜今後の方針＞国の交付金を活用しながら、避難生活に必要な備蓄物資を配備すると共に、食料等の多様な調達ルートを確保するため、キッチンカー等の団体と協定を検討します。また、災害用トイレの計画的な備蓄・整備について検討すると共に、地域内備蓄と円滑な地域内輸送体制の整備に努めていきます。